



經濟俱樂部講

特240

756

國際通商の新傾向

門野重九郎

-49-

昭和九年三月廿二日發行



始



特240
756

國際通商の新傾向

附 日英兩國の協調を望む



門野重九郎

國際通商の新傾向 目次

附 日英兩國の協調を望む

門野重九郎

(一) 經濟的國家主義の流行	一
(二) 通商自由主義の困難	四
(三) 日印會商に就て	九
(四) 會議の懸引	一三
(五) 交渉の困難	一三
(六) 内部的不統一	一六
(七) 日英協議會に就て	二〇

- (八) ロンドン協議會の目的……………四
- (九) 協議會の前途……………七
- (十) 通商自由主義を高唱す……………元

國際通商の新傾向

附 日英兩國の協調を望む

門野重九郎

(一) 經濟的國家主義の流行

何を御話申すべきや貴俱樂部の名前から、國際通商の新傾向のことを申上げ、又其初めに直接當りました日英交渉のことに就て御報告を申上げ度いと思ひます。御参考になり、又面白い點があるやば分りません、事實及び私の意見が混じつた報告でございますから其御積りで御聴きを願ひます。

今度参りました倫敦經濟會議は不幸にして何等の成果を收めませぬでした、御承知の通り、集りました趣旨は不景氣打破、世界の不景氣を何とか恢復したいと云ふのが目的でありましたけれ

ども、機熟せず時至らざる爲でありましたか不成果に終りました、是は致し方がなかつたと思ひます、どうも參集各國が結果だけを見て大騒ぎをして居るが其代りに原因を究むべきだと云ふやうな議論もありましたし、よし原因が分つたに於て所が、さう容易に其原因を除いて世界の不況を打破すると云ふことも出来易いことではない、其結果遂に御承知のやうな風に終つてしまつたのであります、而して此參集各國の其後の有様を見ますと、殆ど逆さまのことを考へ出して、通商の障碍とか、種々雑多な制限に傾いて來たやうであります、現に去年の五月に關稅休戰と云ふ申合せが出来た、それが出来たと思ふと、直ぐにもう脱退する、脱退して置いて關稅を上げる、斯様な傾きが何國にもありまして、英國で寄集りました目的の通商の障碍、關稅障壁を低めやうと云ふことに努めたのが逆さまになりまして、關稅は高くなる、爲替の管理がある、國產獎勵、自給自足、或はバーター主義であるとかど起つて參りまして、大戰に至るまで過去百年の間折角進んで來た經濟的の國際主義と云ふものが、退歩をしたと云ふ有様になつた、甚だ意外の結果でありまして、是は必しも國際會議が不結果であつたから、それが出来たと云ふ譯ではないけれども、其目的と反對の現象が其時及び其以後に現はれて來るやうに見受けられます、當時經濟國家

主義とでも申しますか、エコノミツク・ナシヨナリズムは其國の破滅である、其國の自殺である
と議長の英吉利の首相は申して居り、皆はそれを大いに拍手喝采して居りながら、然かも此エコノミツク・ナシヨナリズムが益々盛んになつて居るやうに見えますのは眞に皮肉であると存じます。

是は一體どうなることでありませうか、世界各國が國を成して各々其獨立を保持し國防を考へ其他色々あるが、此政治的になす國家主義は、是は古來永い歴史を持つて居ることであるし、將來國家がなくなるなどと云ふやうな夢は今日見られませぬのですけれども、兎に角經濟的には國際主義となり世界は一つとなつて有無相通する、是が世界の通商貿易でありました。一體ポリテイカルの國際主義の施設と云ふものは何があるかと申しますと、重なるものはヘーグにあります國際裁判所、もう一つは我々が去年脱したけれども國際聯盟、此二つが昔から何百年の間種々な人が空想に描いたもので、是がヘーグとジュネーヴに現存して居る譯であります、併し是も云はば其影が薄い、ヘーグへ行つて見ますと、此處の平和殿の國際裁判所には日本から安達峯一郎君が出て居られるが、此國際裁判に係かる問題は多少はあります、あることはありますが、如何に

も其處にあるからして、其處を賑はす爲に持つて行くと云ふ風で、實際重要な生きた裁判所であるかどうかは餘程問題であらうと思ふ、併し御承知のやうに立派な建物があつて、其處には各國からの判事が出て居つて、アカデミックの問題を裁判をして居られるやうであります、是が一つのポリテイカル・インターナショナルの代表的のものであります。

それから次は國際聯盟であります、我國は去年の春脱退を致しましたが、其後十月には獨逸も脱退を致しました、其後年末頃伊太利が、組織を變へてはどうであらうかと云ふやうな問題を出した、日本、獨逸は既に脱退をし、伊太利からは改組と云ふことの申出などがありました、甚だ影が薄い譯であります、日本去り獨逸退きますと、彼處に居ります大國と云ふのは英吉利と佛蘭西伊太利、此中で伊太利は今申すやうな申出でをして居るのであります、先づ大國と云ひ得るものは此三箇國だけしか残つて居らぬ有様でありまして、どうも其影が段々薄くなつて來たことは事實であります。

(二) 通商自由主義の困難

さて通商貿易に國家主義が盛んになつて來たならばそれこそ大事件である、而して誰が此大事件に一番深く苦痛を感じるかと言へば、言ふまでもなく東に在る日本と西にある英吉利でありませう、此二國が一番苦しいと云ふことは分り切つて居る、さうして一體此後どうなることであるか、どうも先きの見込がつきませぬ、併し漠然と私の推察する所を申せば、斯う云ふことを言つて騒いで居るうちに、何時の間にか景氣が好くなつて、従前の如く自然に有無相通じて、通商自由主義、國際主義に戻るであらうと思ひますが、さう云ふことを言ふ根據が何處にあるかと云ふと何處にもありません。是は日本の進歩の途がさうなるであらう。又日本としてそれが有利であるからさう行かなければならぬのではなからうかと察せられる次第であります。

而して此エコノミック・ナショナルイズムの反映として起つて來る結果が宜しくないと云ふことはまだよく現はれて來ない、假りに英吉利の例を取つて見ますれば、英吉利は百年の傳統を捨て、保護税率と言ふが、高い關稅をかける國になりました、さうして其結果はやがて悪くはなつて來るかも知らぬけれども、他國が矢張りナショナルイズムに向いて居るが爲に、さほどまだ惡結果は見えて居りませぬ。却つて好くなつて居るやうであります。是はもう世界的不景氣のお蔭で

ありまして、昭和八年と九年の全世界の輸出入高を加へて見ますと五年前の高の殆ど半分以上三分ノ二にも近いだけ減つて居ります、運送業から申しましても殆ど六割減で、半分以上に近いものに減つてしまつて居る、さう云ふ譯で英吉利も日本も共に苦しんで居るのであるが、此の時に當つて英國は鎖國的の經濟施設をして、非常に税を高めた所が矢張り國內産業は起つて参つたのであります、是まで御承知のやうに、英吉利の工業地帯は中部バアミングハムから北スコットランドの方にあつたのであります、其後關稅を高くして、國產獎勵とか色々な聲が盛んになり、又自衛の爲め輕工業が起つて参りました。之は普通に申して極く當筈まる言葉は雜貨と言つても宜いのであります、さう云ふ中小工業に向いて來た、是迄は殆ど重工業ばかり重んじ世界を得意として居りましたものが、さう云ふ小さなものゝ方にも向いて來た、それで是迄は何處から雜貨が這入らうが、何處から小さなものが這入らうが平氣で居つた國が是ではならぬと云ふので、慌て、税を高くして参つたのであります、輸出入貿易は世界の不景氣の爲に未ださほど増進を示しませぬけれども、中小工業が非常に起つて來て、失業者を救濟する顯著な現象を見るやうになつて來ましたから景氣が好くなつたのであらうと思ひます、然かも英吉利では英貨の對内價値は少し

も下がらぬ、或る意味に於て上がる、一體爲替が下がれば物が上がらなければならぬと云ふことは普通の状態であつて、其點は變る所がないのです、英吉利に於て日本に來ても夫々の貨幣の對内價値は餘り變らぬと云ふ有様である、亞米利加も御承知のやうに、金融恐慌が去年の三月にあつて、其後爲替の暴落や、又平價切下など——能く意味が分りませぬけれども——云ふことを一般に言うて居る、それで物價はどうも下がる位で少しも上がらない、非常に國內物價を上げることを努めても、大體に於て言へば、日本でも、英吉利でも、亞米利加でも上がらない状態であり、どうも如何にも奇妙であります、私は是は道理に外れたことではなく、さう云ふ理由は明かにあるでありませうけれども、とにかく理屈通りに参りませぬ。併し日本の場合で言へば、是は非常に結構なことでありまして、同様英吉利などに於ても甚だ結構であつたと言つて居りますが、磅の對外價値は下がらぬから金本位を離脱する、磅が下がつたと云ふことは國際的のことであつて、對内價値は少しも下がらぬ、物價は下がつた位で、寧ろ磅の力が強くなつた、殊に亞米利加があゝ云ふ有様になつたものでありますから、金融中心が又倫敦に戻つて來ると云ふので以て——今日は少し事情が變るが、金がどん／＼英吉利に集まると云ふ有様である。歐大陸の都

市から或日旅客飛行機十五、六臺が金を一噸づゝも搭載してロンドンに着いた事がある、英吉利としては、外の國の貨幣は田舎の錢である世界の通貨は磅であると云ふやうな考を以て居る、英吉利人は非常な自信力を持つて來たのは、要するに景氣と云ふものは人氣であるから、是が英吉利に非常な力を與へ、英吉利人をして左様に考へせしめるやうな因になつたやうに私は見受けたのであります。

斯様に各國が世界の通商障礙と云ふことを考へて、成るべく輸入を少なくしやう、輸出だけを多くしやうとして居りますが、是では我々日本としては甚だ難儀な譯であります、日本は先刻も申しますやうに、通商自由主義と云ふことが一番有利なことでありますが、此頃問題になつて居ります所の日本と英吉利の間の通商問題ですが、日本の立場としては矢張り通商自由主義を唱へるのは無理からぬことで、我々の立場としては、どうしても原料を買つて製品を賣つて行くと云ふより外に途がありません。他國が之を許さぬならば、尙更ら英吉利及び英國の全領土との通商を出來得べきだけ廣くして行かなければ日本としては不利益であらうと思ふのであります。

(三) 日印會商に就て

日本の商品が非常な勢を持つて世界に進出致しましたのは、是は日本が金本位を離れた後一年の春夏の頃から顯著になつて來ました、尤も禁輸前からも幾らか各市場に其傾向が見えて居りました、其處へ爲替下落と云ふ非常な拍車が懸けられて大變な勢を持つて進んだのである、さうして之を一番感じたのは諸外國の中でも英國であると云ふことは言ふまでもない、故に英國では日本に競争されては逆も自國が立行かぬ、詰り自衛と云ふことから、何とか相談をして相當緩和して貰はなければならぬと云ふので此申出がありましたのが昨春でありました、其時も兩國間の條約を廢棄するとか、或は輸入税を高くするとかと云ふやうな色々なことがありましたけれども兎に角此競争を緩和して、何とかうまく協定して、さうして共存共榮の途を講じたいと云ふ申出が英吉利から出たのは御承知の通りであります、爾來色々交渉を重ねましたが、去年の秋に兎に角、それでは一つ會合をして色々相談しやうと云ふ譯で日印兩政府も條約が廢棄され十月中旬から無條約になる譯であるから新しい條約を創定しやう、又先づ印度を加へて日英印の三箇國の當

業者の會合が印度で開かれましたのであります。

此三箇國の當業者の會合と申しますものは、何の爲めに開かれたか殆ど譯が分らぬ、お互に色色話がありましたけれども、餘り是は大いしたことはなく終つてしまひました、唯條約に付きましては日印兩方の政府が代表を出して最惠國條款をなしたるもので、協定稅率を加へた條約で兎に角殆ど出來上がりまして近々調印があるだらうと思ひます。昨春の印度からの豫告に付いて色々面倒なことが起りましたが今迄の條約は前以て豫告をして置いて何時でも廢止することが出来るのであります、現に去年四月に豫告を與へて廢止することを申込んだのであります、所が之に對して日本は非常に友好的ならざる行爲であらうと云ふことを喧ましく言ひましたので、英吉利及び印度はもう少し意外に思つたらしい、どうせ最早條約の滿期が來るのは分つて居る、豫告を與へた所が、それに對してそんな感情を與へるのであらうかと云ふことを驚いて居つた、日本の受け方が意外であるやうに思つたらしいのであります。

御承知のやうに、印度條約と云ふのは特に大切なのは一箇條で外に三箇條ばかりありますが、一番肝要な所はお互に最惠國の扱ひをすると云ふ此一箇條であつて、後は何年經つたら豫告を以て廢棄して宜いとか何とか云ふことが色々ありますが、此最惠國の取扱ひをすると云ふ一箇條が一番大事なのであります、それが去る十月の十日に滿期になつてしまふのを一ヶ月延ばしたが、夫れも十一月十日には最早無條約の有様になつたのであります、無條約の有様になつても是は先づ何でもないのであります。

扱今度どう云ふ形式に條約が成りますか、是は外務省に聞きに行つたら分ることではあります、最惠國條款は、前の條約其儘で、お互に最惠國條項を應用して決して相互に差別待遇をしないと云ふこと、それから附屬書類として、今度出來た協定稅率の綿布に付てはどうする、日本は印度棉花を百何十萬俵買つて呉れとか、さう云ふやうに色々種類分けがしてありますが、それが附屬書類として出るようになりますか、或は先きに協定稅率を書いて、其他は唯最惠國の扱ひをするかと云ふことになりますか、是はもう決まつて居りませうけれども、どちらにしても條約の形式の話で、さほど大事なことではない、兎に角協定稅率の出來たものゝ外は差別待遇をしないと云ふのであります、所が今度の日印會商とは全く別に、印度で雜貨の方が後から新稅率を印度議會に出したと云ふことで、此頃は非常に騒いで居るのであります、是は尤もな話でありまして、

日本からはどうも酷いぢやないか、もつと安くするやうにして欲しい、又さうするのが紳士的であると云ふやうなことを今色々申込んで居りますが、之に對して印度はどう受けますか、私の向ふに居りました時に、實は日本は總ての問題を一緒にして、綿布と云ふやうな特殊なもの以外總てのものを一切入れて會商する積りで居つたのであります、向ふから言はせると日本が棉花を買はないと云ふことが非常に苦痛である。まあ是ほど切れる刀は日本の外は持つて居ない。この印度棉花不買と云ふ刀を抜いた、扱抜いて見ると向ふは慄へてしまった。それだのに向ふでは全體に付て話が思ふ様に出来なかつた外務大臣なども此度の議會で甚だ不満足である、印度はどうも意外なことを言つたものであると驚いたやうな答辯をして居られますが、此事に就て一寸言はなければなりません、澤田氏は今度非常に骨を折りました、實に見て居て氣の毒な位働いて居られました、其揚句が斯う云ふ風になつてしまつたと云ふことは如何にも残念なことで、私も印度には一月ばかりも居つたのだから、と言つても私は役人ではないからどうも其責任を分つ譯にも參らぬが、私としては分けて貰つても宜いのです、今考へると甚だ残念に思はれてなりません。

(四) 會議の懸引

此話は餘り外に洩らされると困るので、此處だけの話にして貰ひたいと思ひますが、去十一月上旬には綿布の輸入税は五割、輸入量は三億二千五百萬ヤード最高四億ヤードとなり、買入れ棉花は壹百萬俵最高一百五十萬俵となり品種別も四種となり、内譯は未定であつたが重要な點は確定した、私は其處に何時迄も居る必要もなし、又御許しがあつたから向ふを立つて直ぐ歸つて來たのであります、雜貨の税率が如何になるかは噂さによれば非常に公平(フェア)にする但し従量税とすると聽きました。爲替の高低により税率を高下する事は相互的ならば差支無いと私は思ふて印度を出發しました、併し豫想に反して雜貨が高かつたのです、それで大阪邊では今大分騒いで居るが、雜貨の人や人絹の方の人は私よりも先きに印度を立つて歸つて來たのです、其人達は安心して歸つて來たのです、是は今思ふと氣の毒です。

(五) 交渉の困難

印棉不買と云ふことはあの時非常に利きました。實際向ふは慄へたのです。それからずつと私は成行を見ますと、向ふの人と話をして居つて、もう少し日本の代表になる人に實際に全権を與へてやつて、肚でどん／＼話をさせたら或はもつと有利に且つ早く雜貨も加へて話が出来たらうと思はれてなりません。それがどうも時が掛かる。双方が會合して一方が意見を陳べると一方が何れ熟考の上と言つて、今度は本國へ電報を打つ、それから返事が来るまで待つて居る、返事が来るにした所で最低三日四日かゝる、こちらが其返事を持つて話をすると、今度は向ふで何れ考へましてから返事をするに來る、斯う云ふ調子ですからどうも僅かの交渉にも非常に時が掛かる、それで私が考へるには、もう少しあれは當業者も政府の方も、あちらに行つて居る人の腹を決めてやり、最初から百五十萬俵なら百五十萬俵と云ふやうなことを決めて、後はお互に勝手にやれ、雜貨の方も必要なら同時に入れろと云ふ風に任せるのがよい。向ふへ行つて初めて雜貨の話が出て、雜貨に付てはどうも決まつて居ないから政府の方に問合せをするからなどと、ぼつりぼつり話合つて居つたのでは段々長引くもので之れではいけないと思ふ、或はさうでないかも知れぬけれども、こちらが宜いと思つても後から又考が違つて來たりするから交渉がうまく行かぬ

何とか早く出来ぬものだらうかと思ひました、けれども私はこちらに歸つて來てから、あなたは今度どうも向ふでやり切れなかつたでせうとよく言はれる、私は出来ることなら終りまで居たかつたのだけれども早く引上げて來たので仕方がありませんでしたが、何とかあれは出来ぬものだらうかと言つた所が、こちらの方としてはさう云ふ全権を與へることは出来ぬことになつて居ると云ふ話でした、今迄たつた一つの例外として、彼に加藤友三郎さんがワシントン會議に出掛けた時には、特別に加藤さんは首席全権で海軍の首腦であるからどん／＼自分の考へ通りやられたと云ふことでしたが、其時だけで、もう其外のことには迎もさう云ふとは出来ないと云ふことでありましたが、或は是はさう云ふものなのでせう、何でも彼でも中央からの指揮を乞はなければならぬのでありますから萬事は推して知るべしである、それに印度は田舎のことですから、夜中の二時か三時頃に電報を打ちに行きますと、さう云ふ所で夜中に電報を打ちに來る人は滅多にないさうで、向ふの係りの人はそれで以てもう泡を喰つて、今度の會議で大急ぎに人を殖やしたり夜勤める人を増したなどと云ふことをした、實際に急がしくやつて居るので、夜電報を持つて行くと迎も不馴れなのか長く時間が掛かつて埒が明かない、しまいには喧嘩腰になつて漸く用

が足りる位で、時と共に大分馴れて来たらしいがどうも一體があう云ふ風に呑氣なのです、一語幾らであるかと云ふやうな事を初めは知らなかつた、中には知つた者もありましたが、大體勘定するのが遅くて、私も一通行つて見ますと、字數を勘定するのに同じ所を三度も四度もかゝつて兎に角一遍の電報を受付けるのに三十分もかゝる、而もそれを日本ばかりではない、英吉利の方もさうやつて本國の方と電報のやり取りをするのですから、急な場合には迎も時間がかゝつて本當に埒が明かぬので閉口したのであります。

さう云ふやうな次第でありまして交渉をするに付ては非常に手間が取れたのであります、要するに政府の話と云ふものは或はそんなものかも知れませぬ、是は我々のやうに商賣をして居る者が考へるとさう云ふやうに思はれるのかも知れませぬ。

(六) 内部的 不統一

度々申すが、棉を買はないと云ふことが非常に利いたらしい、向ふにも甜味があつたのでありまして、色々のものを保護せよと民間が迫つて居つた、然らば一體其品はどれ位出来るかと云ふ

と笑止な程少量が國內で出来る丈けだ、夫れであるのに現に産業保護請願が四十幾種にも出て居つた、請願書の表を拵へてあるのを見ました、所で實際向ふはそれを放つて置く譯にも行かず、併しさう言つた所で一々それを取上げては限りがないし、まあ結局日本に向い御安心下さいと公平にしますと云ふ話であつたのでせう、それで最初印度の當業者の印度政府への進言は二億五千萬碼を最高とせよ、税は六割二分二厘の税を課する案を出した、さうして買ふ棉花は百萬俵とする、さう云ふ進言が出て居つたのを印度政府は奮發して日本の申出に對して向ふから初め出ましたのは最低三億碼、最高三億五千萬碼、棉花一百万俵—一百万五十萬俵と出て來ました、それから税も七割五分を直ぐ五割まで下げた、夫れから段々交渉の結果が此一月上旬の取極めの如く決つた、綿布も雜貨も種々議論もあるが本年から三年間の成績に就て見なければ此度の條約協定を彼是批評は出來ない、私も其責任を分つべき一人ですから是以上申上げない方が利口だらうと思ひます。

印度の紡績は日本の紡績に較べれば少し多い、今年の末になつたら日本の方が多くなるかも知れませぬが、現に約九百萬錠ばかり働いて居ります、織布は手織、詰り手織が非常に多い所であ

ります、約十億ヤードを手機で織ると云ふ有様で、五十億碼位が印度の年々の消費で、其中十億は手機で織り、織機で三十億を織り、後の十億碼は英吉利と日本で分けると云ふ譯です、英吉利のは上等品、日本のは中から下の方で、日本は段々上等品に向つて行かうとする、英吉利は前からの上等品を自分の所で持つて居やうとする、所が印度も新しい工場では上等品に最近向いて居るので、印度の新工場では上等品、中等品を自分に取つて置いて、下等品を外に押付けやうとする、最近ボンベイの紡績は殆ど絶望だから、あれはもう放つて置く、それより内地の新しい成績の好い所は中以上の品に向ふ、斯様に印度の地方々々で各々利害關係も異なる、又仲間割れをして居るものだから話も非常に混線した譯であります。

話かわつて民間側の會合ですが、今回の印度に於ける日英印の各當業者の會合で或る協定を得る積りでやつたのですが、結果に於て何も得られませぬでした、是は日英兩政府間の最初の申合でもあるのだし、寄合つて話をしやうぢやないか、體裁だけでも寄つても宜いから三國で寄らうぢやないか、それは宜しからうと言つたのであつたけれども、どうしても一堂の下に三つの國の當業者を寄せることが出来ないのです、肝腎の印度側に於て二つに分れて妥協し合はない、其方

で又喧嘩をし出す、結局集められない、此場合三ヶ國が寄ることは日本側としては望んでも止まないことであるが、何時迄も斯う云ふ状態では何時果つべきや分らない、又將來も悪いから此三國寄ることは止めにしやうと決まつた、それは別に強いて寄らぬでも宜しいから、先づ英吉利と日本とがお互に協調してやつて行かう、それより外に策がなからう、何しろ印度の中に於ても、日本に好意を持つて居るものと、英吉利の肩をもつて居るものと喧嘩をする、是は各々經濟上、政治上の立場が違ひますからです、尤も是は強ち印度ばかりでもありません、現に日本の當業者もさうであります、日本の當業者の中に於ても利害關係が違ふ、是は商賣のことでもありますから、何も統一的畫一的に行くとは決まつたものではない、又さうあるべきが當り前であらうと思ふ、それは少しも構ひませぬけれども、あゝ云ふ場合は双方で折れ合つてやつたらと思ひます、どうせ商賣のことですから單純にさう一概に劃一的なものでない、それもまあ仕方がありませんが、さう云ふ混戦状態を呈したのは遺憾でした、是では何としても仕方がない、私も此度印度へ行つて面白い觀察をし經驗をしました。印度の話が長くなりましたが、近く起る所の日英協議會のお話を致します。

(七) 日英協議會に就て

御承知のやうに、英本國と日本の貿易は是までは常に英吉利から買ふ方が遙に多かつたのであります、年來英吉利から何億買越して居るか何十億買越して居るか大變な高になつて居る、向ふは餘り買ひませぬでしたが、併し最近は爲替下落をやつと向ふの方が日本からの品物を少々買越しになつて來たと云　様であります、英吉利本國とはさう云ふ有様で小さなものであります、併し全面的に英帝國全體を通して考へて見ますと是は大きなものであります、時に消長浮沈はありますが、最近日本からの輸出が大分殖えて來ました、大體大掴みにして見て、日本の輸出及輸入額共に二割五分乃至三割と云ふものが對英の商賣で、是は大きなものであります、我相手國としては先づ第一は亞米利加である、次は英帝國で第二位になつて居つて、大掴みに言つて全貿易の三分の一と云ふものが英帝國への輸出入貿易となつて居ります、それであるから兩方とも大切な御得意であるから中々忽せに出來ない、それ故に英吉利からして何とか此機會に話をつけて日本の意外の進出の緩和をしやう、お互に共存共榮を圖らうぢやないかと云ふのが根本的な考で

あるのでせう、去年の春あたり我國では頻りに英吉利に對して色々な噂もありましたが、是は根も葉もない話でありましたが、是は多分國際聯盟脱退の時に於ける誤解から來たものらしいと思ひます、併し此種の政治的問題とは全く別で英吉利から言はせれば大切なことで、自分が生きむが爲に所謂自衛の爲に何とかして貰はぬと困る、兎に角英吉利の商賣高は三分の一に減つて居ると言つて宜いのであります、さう云ふ有様で、生きむが爲に何とかしなければならぬ、それで買ふにも賣るにも大得意先きである所の日本とは、何處の市場に行きても先づ第一に日本とぶつかるものだから、協調を必要とする考を起したのでせう、兎に角彼は生きむが爲め、自衛の爲である、それで我國でも割當を勝手に極めて居る、佛蘭西などでは割當を頂戴して居る、極く小さな割當が來て居る、不平は言ふけれども、さう云ふ少量な所だから仕方がない、鮭の罐詰の割當が來る、成は綿布の割當とか何も彼も割當が來る、加奈陀などは英領であるが我爲替の下落に應ずるだけ輸入税を上げた、是等は小さなものだから餘り目立つことなく今日まで參つて居ります、所が英吉利となると、是は日本から買ふ片貿易ならばさうでもありませんけれども、日本は大變な買手で御得意としてやつて行かなければならぬ、今のうちに話を何とかつけなければなら

ぬと云ふ、其處は英吉利人の常識の優れて居るところでありまして、又日本としても原料は買はなければならぬし、其原料は亞米利加の棉を除きましては矢張り英領諸國から來るのであります、是亦大切な御得意先である、如何に考へましても、日本の立場としては通商自由主義と云ふものが大事であると云ふことは我々も考へて居ります、ところで今度のロンドン會合をやらうと云ふことになりましたことゝ存じます。此日英當業者の協議をして、何とか協調を保ちたいと云ふ此提議には日本としても承知致しました、印度に於ける當業者協議會のやうな不結果に終つては何にもなりません。

是は一體何の爲に、如何なる目的の下に英吉利が此事を申込んで來たか、さうして又日本は何の爲に之を受けたのかと言ひますと、日本としては最初英吉利が言つて來たから之に應じたら宜からうと云ふので決まつたのであります、それに其頃は幾らか人氣も宜しくありません、旁々折角向ふから申出したことでもありますから、兎も角も之に應じて話をして見やう、斯う云ふ態度が宜しからうと云ふことで話が決まつたのであります、愈々英吉利で聞くことに決まつてから、日本から急ぎ渡英した岡田源太郎等の諸氏も英國側の委員長バロー氏等に紹介し顔合せの一會が済ん

で直に印度に廻つたのです。此英國に於ける當業者會議に關して私は度々種々の人に、何の爲に一體此會議が提議されたかを質問しましたが、どうもはつきりしないのであります、英の農商務大臣——此方は非常に穩厚な又自由主義の人ですが——に話しました時同大臣は双方の當業者が懇談をすれば何か考へ出すであろう、誰と話して見ても別に提案が無い様である。どうもはつきり趣意が分らない、一體寄ることは寄るが、其處で何を話をするのかと訊いて見たら、兎も角會合をやつて、皆を寄せて見たならば何か其時に考へるだらう、是は向ふの主なる人達や大臣等もこんな考へであつたのであります。其處が英吉利人の面白い所でせう、常識的、實際的であつて論理的ではなく、又分解剖的でもない、此處が面白い所であらうと思ひます、併しそれかと言つてこんな何も考がないことはないと思ひます、佛蘭西人は頭が遠ふ、英吉利と佛蘭西との國民性は非常に遠ふのは此處であります、英吉利人として馬鹿ぢやないから、きつと何かあるに違ひない、それでもそれ以上聞いても分らないから聞きませぬでした、所で話は一寸前へ戻りますが、英吉利の商務大臣が、私が英吉利へ行つた時に倫敦で會つて話をしたのですが、其時に、日本では今度印棉をポイコットしたさうだが、一體日本では印度棉なしで済むのかと言つて

私を見てにや／＼笑つて居つた。

農民一般の苦んで居るのは全世界で（是は強ち日本ばかりではありませんまい）、亞米利加や加奈陀を初め世界各國が皆之には困つて居る、殊に印度の農民の困つて居ることは實に悲惨なものですから、約二億圓位もある棉を日本が買はないと云ふことになりますと、是は大變なことになるのでありまして、此事に付ては非常に向ふでも心配をして居りました、本當に心配をして、是は何とか早く話を決めたいと云ふ腹があるから、澤田氏の話は先づ滑かに進んだと見受ける。

（八） ロンドン協議會の目的

それで一體英吉利政府は何を考へて居るであらうか、私は是は去九月英吉利を立つて以來ずつと考へて居るのですが、どうも其真相が分らない、或ひは今度は何も出来ないかも知れぬ、兎に角ランカシャー人は難かしい人間だから話がうまく運ばない虞れがあります、ランカシャーの人は日本の大阪の人よりも中々こわいのだと冗談を言つて居りました、それで之には實際英吉利政府も弱つて居るやうでしよ、印度憲法問題の時なども、ランカシャー選出六十餘人の議員は反政

府の態度に出づるなどの噂もあつた位でした。今度ロンドンに寄つてどんな話をするのか、唯一つ是はと思ひますことは、日本が印度でコーターが決まつた、四億ヤードを最高にすると云ふことが決まつたことを非常に重んじて居ります、主義として此割當を認めたと云ふことは非常に大きなことである、私が英國を去りました後の演説などを見ますと、日本がコーターを決めた事實を重んじて居りますから日英會議としては矢張りコーター論と云ふことになつて来るだらうと思ひます、例へば西部亞弗利加が何程、ニュージランドが幾らと云ふことになつて来るだらうと思ひます、是は公平に出来た場合には非常に結構だと思ひます、唯コーターは兩政府間の條約にならなくても出来るだらうかと云ふ點であります、是は別に差支なく出来るでありませう、兩政府間の協定とならずとも、當事者間の問題として、双方の輸出統制をして、各市場で割當を決めて輸入をする、斯う云ふことになれば兩政府を煩はさずして當事者の協定で以て出来ぬことはありませぬ、併し是は大きな問題でありますからどうなりますか分りませぬ。それから出来た場合をもう一つ考へますと、或る協定が出来たならば、今のコーターに付て之を兩政府が取上げて、さうして兩國政府の協定税率とか割當申合せと言ひますか、或は此等を條約の附屬書類とするか

さう云ふものに依つて政府の呼吸のかゝつたものとする事です。

日英條約廢棄と云ふことを頻りに向ふでは云ふて居ります。議會のある毎に一週間に二度位も問題になつて居る。が一體日英條約廢棄と云つても、或る意味に於ては唯其中の最惠國條款と云ふものが大切なものでありまして是だけ存して置けば、其他は條約を廢棄しやうがしまいが、そんなことは問題ではありませぬ、此條約は大變古い條約です數年前に之に追加があつたのでありまして、今度の協議に依つてコーターを決める、其コーターを唯民間の申合せにして、輸出統制をして實行するが、或は兩政府の協定に依つて、又他日日英條約の追加にすると云ふのが話が纏つた場合のことであらうと思ひます、次に出來ない場合はどうであるかと云ふと、其場合はもう自由であると云ふことであれば、此日英の條款を存して置いて、各英領の稅率を大に上げる日本品丈を高率に扱ふと云ふ譯には行かぬが、常に關稅の障壁を高くするかも知らぬ、併し日英會議が不成功に終つたならば、兩帝國の間で一つ直接に協議をしやうと云ふ、斯う云ふ考があるかも知れませぬが、要するに以上申上げた此四つになる譯だらうと思ひます。

(九) 協議會の前途

初め英吉利政府では非常に此協議に立會ふことを厭やがりましたが、立會はなければ此話に重さがない、日本政府の方では喜んで立會ふ、松山商務官が立會ふことになつて居るのであります唯聴き手として、所謂オブザーヴァーとして、日本政府側の人が列席するから英國の商務省の方でも誰か立會ふが宜しからうと云ふことを懇々話しました、併し英國側は立會つて居らぬ様です兎に角此會議は商賣の懸引、取引の爲に寄つて居るのとは少しく意味が異つて居るので、結局は何かまとまるであらうと思つて居ります、私は在英の折も色々英吉利側にも、日本側にも一體何を考へて居るのか、舊臘歸つてからも、一體考がついて居るのかと言つて誰彼に訊いてもどうもはつきり分らぬので、今申上げたやうな四つの場合を考へて、是は非常に大きな問題であつて、範圍も廣く、又性質も重大なことであるから、能く考へてやらねばならぬと云ふことを諸方面へ進言したのでありますが、どう云ふことになりますか、兎に角日本の貿易の合計の三分の一にも當る相手方でありますから是は重大な問題であらうと思ひます。

英吉利の直接不況打撃を蒙つて居る地方の對日人氣は良いとは云へぬが、地を替へて考へれば無理は無い、日本は偉くなつた、併し俺の方は喰へぬから何とかして呉れぬかと云ふ矢張り往年の同盟國であつたし、さほど人氣が悪いと云ふことは全體にはありませぬけれども、地方では幾らか人氣はよくない、去年六月十二日、國際會議の開かれた日に、郷男爵が英國の新聞に手紙を掲げられた、其旨意は兩國の當業者が協議會を開き友好關係を持続することに付て相談をするが宜からうと云ふ提議をされた、之を見た人は大層よい手紙であつたが、一般が之を見なかつたのは惜しいことをしたと言つて居りました、如何にも名文であつて考もよかつたのですが、是が全國に出たならば非常に宜かつたのですが、廣く注意を惹きませぬでした、それから又印度が稅率を七割五分に上げた時に郷男から英國の主要なる商業會議所三つと英國産業聯盟へ強硬な抗議を打電されたが受信人等は之を其當時公表せず控へて居つたこともある、今度日英會議が開かれるので、丁度好い機會であらうと云ふので、郷男から長文の意見書を英國の新聞に出した、是は御承知の通り全國の新聞に出ました、大に氣受けが良好であつた模様です、此手紙の爲に會議がよく行けば結構な事と思つて居ります。

(十) 通商自由主義を高唱す

段々長くなりますが、一寸此際申上げて置きたいのは、今度會議に臨みます時に、最惠國條款と云ふことを旗印しとして、之を中心として、互惠と云ふことを第二の建前としなければならぬ此最惠國條款と云ふことを第一義に置くことは當り前だらうと思ひます、此最惠國條款と云ふことを第一線として今度ロンドン會議で新しく條約が出来る假想としても、それは兩國協定稅率の條約で、昔の様に綺麗な文句のものでなくなつた、政治的でなく經濟的のものとなつた國際會議の形式だけは存して居るけれども、其内容はお前の所から棉をどれ位買ふ、お前の所から石炭をどれだけ買ふと云ふやうな現實の問題である。唯不幸なことには、先刻申上げましたエコノミツク・ナシヨナリズムで以て、出来るだけ買ふけれども、又出来るだけ賣らう、斯う云ふことであるからして、詰り其結果がどうなつて來るか云ふと、出来れば輸出入をバランスさせやうとするのでせうが、相手國とバランスさせると云ふことになれば、世界の通商貿易は約五分の一位になつてしまふだらうと思ひます、此事は日本などは大いに禁物です、日本は大いに買つて、大い

に賣らなければならぬ、それで斯様にして皆相手相互にバランスさせると云ふと、印度の棉はこちらが買ふ又賣込む雜貨が六七千萬圓、外に綿布類七、八千萬圓合せて一億五千萬圓、さうすると買ふ棉花と略バランスすると斯う云ふ所は宜いのでありますが、濠洲などはこちらから買ふのは一億二千萬圓からあるが、向ふから買ふのは三千万か四千萬圓位しかない、之をバランスさせる事は難儀である、斯う云ふのは何とかしなければなりません、産業國であり商賣國である所の英吉利と日本とは通商自由主義に立脚せねばならぬ、此二箇國だけでも通商自由主義で有無相通ずると云ふ主義で以て行動して行かなければならぬ、通商と文化だけは國際主義になり自由主義になつてやつて行かなければならぬ、通商と文化の二つは國際主義で以て行くと云ふのが日本の國是であり、又日本はそれで行くより外に仕方がないであらうと思つて居ります、それであれやこれや色々考へますれば日英會議の前途は何とか纏まるであらう、不幸な結果はあるまいと思ひます、英の自治領を問題の範圍とするや否やの如きは左程の重大なるもので無いと私は考へるが、會議の開かるゝも數日後の筈であるから細目の話は見合せます。

昭和九年二月八日（木曜日）

昭和九年三月廿二日印刷
昭和九年三月廿六日發行

國際通商の新傾向

金拾五錢

編輯人 神原周平
東京日本橋本石町三丁目二

印刷人 本間十三郎
東京市牛込區矢來町三十六

經濟俱樂部演講部

—(49)—

不許
複製

東京日本橋本石町三丁目二

東洋經濟出版部

撰替口座東京六五一八番

發賣所

終